山形新聞
2013年（平成25年）10月24日（木曜日）

いしゃ先生

町おこし映画顚末記

▶⑧

あべ美佳

自分の好み大いに結構

東京へ出稼ぎ（？）に出て20年。最近とくに思うのだが、東北の人は良くも悪くも、想像する力に長けている気がする。長い冬のおかげだろうか。我々は吹雪で家に閉じ込められていても、「想像」という最高の遊び道具で楽しむすべを知っている。小説、俳句、歌、映画、ドラマ、朗読、演劇、神楽、能、とんと昔話…あげればキリがない。たまに「妄想」も含んだ噂話になったりもするが、東北人の生活の中には「物語を楽しむ文化」がちゃんとあって、ときにそれは観客側ではなく自分参加型にもなっている。それってつまり、東北の人は「人のすること」に興味があるんだべなぁ。

先日、山形テレビ（ＹＴＳ）の「提言の広場」で、我々の取り組みを取り上げていただいた。出演したのは3人。「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」会長で、月山朝日観光協会長の阿部幸一さん（同じ名字ですが、父ちゃんではありません）。東北文教大学教授の大川健嗣さん。そして、わたし。……子供のころから見ていたあの真面目な番組に自分が出演するの!?　あたしも年取ったなぁ……。そんなことを思いながら、はじめてＹＴＳのスタジオへ入った。

「志田周子の魅力とは？」「映画を作ろうというこの取り組みの狙いとは？」「作品を通して伝えたいことは？」。

自分が出演するの!?　あたしも年取ったなぁ……。そんなことを思いながら、はじめてＹＴＳのスタジオへ入った。

「志田周子の魅力とは？」「映画を作ろうというこの取り組みの狙いとは？」「作品を通して伝えたいことは？」。

番組であらためて聞かれ、三者三様に答えるうちに、想像していなかった考えも出てきて非常に面白かった。まったく異業種の立場が違う方々と仕事ができるのも、町おこしならでは。いやぁ面白いものですね。

主人公のイメージキャストについても、三者三様。会長が推す倍賞千恵子さんでいけたらそりゃあ最高だが、周子が25歳のときから演じなければならないため……会長の夢はきっとプロデューサーに却下されるだろう。誰がいいんだべね、主人公の女優さん。皆さんは、誰が一番いいと思いますか？

こんなふうに我々は、あれやこれやと想像し、工夫し、少々の困難も楽しんで、ひとつの「大きなお神輿」を作ろうとしている。町おこしのシンボルとなる高価なお神輿を一人でも多くの県民と一緒に担いでいきたいものだ。だって見ているのもいいけど、参加したらもっと面白い。

参加の仕方も幾通りもある。お金を出してくださる方、エキストラで映画に出ていただく方、当時の衣装や道具を貸していただける方、俳優さんやスタッフに温かい味噌汁を出してくださる方……まだまだ、なんぼでも「交ざる方法」はある。だって、それが町おこしですから。

今後の目標のひとつに、日本中を巻き込んで、主要キャストのオーディションもやりたいと思っている。審査員はぜひ、婦人会のお母さん方に交ざっていただきたい。だって、一番大事なのは「映画を見てくれる人の目」。とくに母ちゃん方は厳しいがらねぇ。自分の好み、大いに結構！　これより確かなものはないのだ。

（脚本家・作家、尾花沢市出身）

＝月1回掲載します